



# ADRC Highlights

Asian Disaster Reduction Center Monthly News

Vol. 326  
May  
2020

## トピックス

### 元ADRC客員研究員からの手紙

ベーダ・ニディ・カナル  
(ネパール)

### お知らせ

新型コロナウイルス感染制御にかかるアジア各国における取り組み

### 関係機関との防災協力推進

JICA研修「総合防災行政」  
コースの実施

### 国際会議への参加

ASEAN防災ハイレベルシン  
ポジウム

## Asian Disaster Reduction Center アジア防災センター

〒651-0073  
神戸市中央区脇浜海岸通  
1-5-2 東館5F

Tel: 078-262-5540  
Fax: 078-262-5546  
editor@adrc.asia  
http://www.adrc.asia

© ADRC 2020

### ●元ADRC客員研究員からの手紙

#### ベーダ・ニディ・カナル (ネパール)

日本は、災害への対応とその後の美しい再建で名をはせた国です。私はネパールから日本に來日し、2020年1月13日からアジア防災センター (ADRC) で勤務を始めました。新しい文化を学び、世界中の様々な場所からきた新しい人たちと交流し、魅力的な国で防災の優良事例について学んだことは、素晴らしい体験でした。

3か月の研修を終え、ネパールへ帰国した後は、ネパールでは新年 (4月中旬) と私の妻と家族と結婚記念日を祝うことになっていました。しかし突

然、中国の武漢から奇妙なウィルス、後に世界保健機関 (WHO) により COVID-19 と名付けられたウィルスが拡散し始めました。国々がこのウィルスの侵入を予防し、制御するための様々な対策を取り始めました。日本では、ダイヤモンド・プリンセスと呼ばれるクルーズ船内で感染者が確認され、ニュースで連日大きく取り上げられました。一方で、ネパール政府も対策を取り始め、2020年3月20日以降、日本を含む特定の国々から到着した人たちの上陸拒否を発表しました。その後、3月24日からロックダウンが実施され、5回も延長されたのち、現時点では5月18日までとなりました。誰もがこの先何が起こるのかわかりません！ロックダウンでは、家にいること、緊急時もしくは最低限必要な用事以外は外出することは許可されません。このパンデミックは、世界中の人々に、とても奇妙な状況を作りだしました。私は、生活、自由、キャパシティ、可能性や希望について多くを考えるようになりました。

世界は一般的な安全保障から「衛生の安全保障」へと転換しました。「ロックダウン」、「緊急事態」、「社会的距離」について人々が述べ、「ステイ・ホーム」、「顔を触らない」、「マスクを着用する」、「手に消毒液を利用する」、「頻繁に手洗いする」、「人ごみを避ける」、「くしゃみをコントロールする」ようにと言われるようになりました。現在、科学者たちは昼夜を問わずこのウィルスに対峙するための治療方法を模索しています。いくつかの研究では、部分的な成功も報告されています。世界的なパンデミックに対峙している努力と対策の裏では、これからの新しい世界のシナリオについて議論されています。

ロックダウンを裏返せば、ほとんどの国では空気が澄み、地球環境は改善されています。山々は美しく、道路脇では花が咲き、野生の動物が道路を横切り、地球はあらゆる生き物が共存する場所であるということに改めて気づかせてくれています。



## 続き

そして、「在宅勤務」という文化がスタートしました。ZOOMを使った会議が多く開催されるようになりました。国連防災機関（UNDRR）はCOVID-19に関するWebinarを開催し、対策に関する助言や進捗について共有してくれており、私も多くのことを学びました。私はまた、ソーシャル・メディアやオンライン・メディアを通じネパール社会の状況について共有しました。また、日本での私の日常の活動も記録しています。更に、日本とネパールにおけるCOVID-19に関する状況を比較したレポートも準備しました。そして自分自身の研究レポートへも取り組んでいます。自分を忙しくさせることで、私の神戸での生活はより簡単になります。ブータンとタイの同僚は、予定通り自国に帰国できましたが、僕とスリランカの同僚は依然日本で足止めされています。

私は、在日ネパール大使館に帰国について相談し、ネパールの内務省には必要な許可証や事務手続きをお願いしました。現在調整を行ってくれています。今、私には3歳半になる息子がおり、ビデオ電話を通じて私に頻繁に話しかけてくれます。ボールを手に持って「お父さん、嘘をついているでしょ！今日僕と一緒にサッカーをしよう！」と言い、私は感傷的になってしまいます。ネパールでは、国際空港の再開に向けて動き始めており、私を含む海外にいるネパール人が近いうちに帰国できることを願っています。

ソーシャル・メディア、オンライン・ニュースは、この静かな時の私の友達となりました。報道は、COVID-19と闘う日本の取り組みについて、私に多くの情報を提供してくれます。それによると、日本の科学者たちは治療の開発に懸命に取り組んでおり、成果も見られています。中央政府や知事も積極的に取り組んでいます。緊急事態が宣言され、当初の7都道府県から13都道府県に拡大しました。医療機関や対策は強化され、患者を隔離するためのホテルの部屋は21万室以上確保され、最悪のシナリオに備えた準備を進めています。情報によると、最近では日毎の新しい感染者数は減少しているようで（<https://covid19japan.com/>）、日本における「新しい日常」の始まりに向けた希望が見えてきています。

ネパールでは、ロックダウンや国境管理により、現時点（2020年5月6日現在）では82人の感染者の確認となっており、ウィルスの拡散をうまく制御しているように見えます（<https://covid19.ndrrma.gov.np/>）。5月6日時点では回復率もよく、重症患者についての報告は現在のところありません。ネパール保健人口省によると、ネパールでは他国との傾向が少し違うようで、無症状の有病率が高い傾向にあるとのこと、更なる研究が必要となっています。ネパール政府は、感染者数に基づいた地域のロックダウンの緩和を計画しています。何千人もの海外で働くネパール人は、帰国できるよう国際空港の再開をネパール政府に求めています。ただし、海外にいるネパール人を迎える詳細については、いまだよくわかっていませんが、準備中であること、そして滞在先で辛抱強く待つように政府は要請しており、私は希望を抱いています。

2020年5月6日

ベーダ・ニディ・カナル

\*ベーダさんは2020年5月16日、無事ネパールに帰国することができました。

## ●お知らせ

### 新型コロナウイルス感染制御にかかるアジア各国における取り組み

ADRCでは、メンバー国における新型コロナウイルス感染爆発への対応状況について、本センターの有する延べ100人を超える客員研究員ネットワークを通じて情報収集を行っています。これまでに収集したレポートは、本センターのホームページ

（[https://www.adrc.asia/publications/disaster\\_report/covid19\\_jp.php](https://www.adrc.asia/publications/disaster_report/covid19_jp.php)）  
において日英両言語で公開しています。

## ●関係機関との防災協力推進

### JICA研修「総合防災行政」コースの実施



朝倉市(九州北部豪雨被災地)視察

ADRCは、国際協力機構（JICA）からの委託事業として、2020年1月8日から2月21日にかけて、防災行政官を対象とした研修「総合防災行政」コースを実施しました。本年は、バングラデシュ、ブラジル、エジプト、インド、ミャンマー、ネパールの6ヶ国から7名が参加しました。研修員の多くは防災担当部局の政府機関で勤務する職員です。

この研修では、中央・地方レベルでの日本の防災システムを学ぶとともに、水害、土砂災害、地震などへの対策、学校防災教育、コミュニティ防災、気象台の役割等について講義を受けました。また、タウンウォッチング演習の参加、朝倉市の視察等を行うなど多くの実習、見学にも参加しました。

研修員は日本の防災への取り組みに高い関心を示し、様々な講義、見学に対し大変熱心に参加しました。帰国後、彼らが研修で学んだ知識や手法が、自国のより良い防災体制の構築に寄与していくことが期待されます。

当研修実施にあたり、訪問等を受入れいただきました各関係機関の皆様に厚くお礼申し上げます。今後とも引き続きご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## ●国際会議への参加

### ASEAN防災ハイレベルシンポジウム

2020年2月26日から27日にわたり、インドネシア、ジャカルタのASEAN事務局にて開催されたASEAN防災ハイレベルシンポジウムにADRCは参加しました。これはASEAN事務局が主催し、中国が支援したもので、多様なバックグラウンドの専門家を幅広く招き、ASEANの防災について議論するプラットフォームとなり、既存のASEANのメカニズムを補完することを目指すものです。アセアン加盟国、国際機関、研究機関、NGO等から、防災だけでなく社会、金融等、幅広い分野から100人を超える専門家が集まりました。

本シンポジウムは開会式と6つのテーマ別セッションに分かれて行われました。シンポジウムでは防災サイクル、分野に限らず災害データの正確性と範囲について課題に挙げており、ADRCからセッションV「十分な復興計画、復旧、よりよい復興」の最後にASEAN各国における災害データの開発と手法についてコメントし、GLIDEの応用の可能性について提案を行いました。



オープニングセッション

### 問い合わせ・配信申し込み

このニュースレターに対するお問い合わせ、またEメールによる配信をご希望の方は editor@adrc.asia までEメールをお寄せください。